表面科学 Vol. 16, No. 1, p. 4, 1995

日本表面科学会創立15周年を祝う

(社) 日本物理学会 会長　小　林　澈　郎

創立15周年を心からお慶び申し上げます。会員の皆様はもとより，学会創立と「表面科学」発刊に尽力された草創期の方々の感慨はひとしおのことと推察いたします。この間の学会の活発な研究活動と会誌の充実した内容を見聞するにつけ，関連深い学会の一員として，この15年の歩みに大きな拍手を送り共々に喜びを頒ち合いたいと思います。「吾十有五にして学に志し」という孔子の顰(ひそみ)に倣(なら)うならば，予断を許さぬ学問の進展，技術革新，社会の変動などに学会が的確に対応していくためには，いかなる志を立てるべきかということではないでしょうか。

今年から「表面科学」が月刊になるのは朗報です。今まで欧文誌がなかったのも不思議なくらいですから，近々欧文誌創刊も期待したいところです。伝統的な印刷文献の重要性は今後も変ることはないと思いますが，情報交換のエレクトロニック・ネットワーク，電子出版物の利用などが急速に進んでいる現状にどう取り組むべきか。これはすべての学協会にいま課せられている難問だろうと思います。志を新たにすべき所以であります。

最後に門外漢からの放言を一つ。会誌名を「表面の科学」としようという声はなかったのでしょうか。学会名「日本表面科学会」はいいのですが，会誌を「表面科学」と言い切ると素人目には一つの領域が厳格に設定されたという印象を受けました。本来，広い学問分野を横断したユニークな学際研究誌としては，「表面の科学」のほうが広さと奥行きが出るように思いますがいかがでしょう。「光の科学」創刊時，「の」の意義を藤岡由夫先生からお聞きした記憶が甦ってきました。「表面」の研究を通して物質の「奥」にひそむ真理を探り，新しい材料や技術の研究・開発に一層貢献されんことを期待してやみません。